

令和8年度予算案に公明党の主張が大きく反映しました!

1.防犯対策のさらなる強化

- スマート防犯灯のモデル実施
カメラ・センサー・通信機能を備えた次世代型街路灯
- 地域防犯カメラの設置
LED防犯灯の設置
- 宅配ボックス設置支援
「置き配」対応として、「よこはま安心ボックス」を新設

地域防犯カメラ▶



2.災害に強いまちへ・生命をまもる備えをさらに強化

- 避難所環境をより快適に
 - 災害時のペット対策を強化
風水害時の一時預かり対応
 - 学校体育館へのエアコン設置を加速
 - 学校トイレの洋式化を加速 30校→66校
 - 備蓄品予算を拡充
食料・水・生活用品等、12方面別備蓄庫
 - 災害用トイレ対策を強化
予算 0.5 億円→1.2 億円に倍増、(トイレパック、仮設トイレ、汲み取り式仮設トイレ、災害用トイレトレーラー牽引車を追加配備)
- 各家庭での備えを後押し
 - 感震ブレーカー設置を促進
新たな補助を追加
 - 家具転倒防止対策を促進
 - 消防団活動を拡充
 - 通信環境の整備
Wi-Fiルーターを導入



▲Wi-Fiルーター

3.誰もが安心して暮らせる街へ

- 禁煙・受動喫煙防止の徹底強化
 - 密閉型喫煙所の整備
開放型から密閉型喫煙所への転換
 - 喫煙禁止地区のエリア拡大
 - 高齢者の安全・安心へ
 - がん検診事業の拡充
65～69歳のがん検診・精密検査費用の無料化
 - 特別養護老人ホーム等への入所支援
早期入所へコーディネーターのマッチング強化を創設
 - 介護人材の確保・定着支援等
増加する介護ニーズに対して、介護人材の確保・定着支援等を拡充
 - 窓口での終活支援サポートを拡充
あんしん終活相談センター、ヨコハマあんしん登録制度
 - 認知症治療実地医療
機関ネットワークの構築を支援
- 地域交通の維持・充実へ
(11年度までに50地区で実施)
 - 実証運行導入支援をプッシュ型で実施
 - 経費一部負担で本格運行を実現
 - 敬老パスを継続、利便性を向上
(バス事業者への負担金サポートを強化)
 - 障害児グループホーム運営費の補助を拡充(小規模GHを補助対象に追加)
 - 窓口での行政手続きのDX化を推進(ライフイベント関係手続ワンストップ化のシステム構築)
 - GREEN×EXPO 2027の交通渋滞
へ交通マネジメントの実施



4.子育て世帯に、安心とゆとりを

- 妊娠期からの切れ目ない支援を充実
 - 弱視などの早期発見
屈折検査機器による検査を全区に拡大(6区→18区へ)
 - ワクチンの定期接種を
RSウイルス母子免疫ワクチンの定期接種化
 - 出産育児一時金の独自加算
50万円+最大9万円まで補助
 - 妊婦健康診査の独自加算
14回分の補助券+5万円の現金支給
- 子育て世帯に確かな支えを
 - 乳幼児の一時預かりを拡充
幼稚園・保育所等の空き定員を活用した一時預かりの拡充
 - 地域子育て支援拠点
日曜開所をモデル実施(9か所)
 - こども誰でも通園制度
制度実施園を拡充(31→97施設)
 - 昼食提供減免制度の創設
キッズクラブ・学童で、夏休み等の長期休み期間中の昼食提供減免制度を創設(低所得者中心)
- 健やかな成長を支える教育環境を
 - 中学校給食の全校実施(4月開始)
国交付金の活用による保護者負担抑制、食缶による汁物提供、アレルギー食の推進
 - 給食室へのエアコン設置を大幅拡充(90校、累計102校)
 - 職員室業務アシスタント・ICT支援員の配置を拡充
 - 学校教室の断熱改修を新たに150校で開始
- 不登校児童生徒等に寄り添った支援を
 - 定期健康診断の受診機会を新設
 - バーチャル空間を活用した支援、保護者カフェを新設

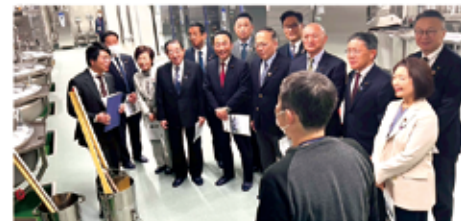


給食室エアコン視察▶

政務活動最前線

中学校給食センターが完成

4月から始まる中学校給食に先立ち、完成した横浜市中学校給食センターを訪問。大量調理における徹底した衛生管理、おいしさや栄養バランスに配慮した調理工程、アレルギー対応の体制を確認しました。安全・安心な給食の安定提供と、生徒一人ひとりの健やかな成長を支えるメニューの充実につなげてまいります。



竹山団地で進む世代交流

高齢化が進む竹山団地で実施されている「ふるさと竹山プロジェクト」を視察。神奈川大学と連携し、学生による学習支援や高齢者向けスマホ教室、料理教室と健康づくりの取組を展開。学生と地域住民が交流し、健康促進や生活習慣改善、地域活性化を目指す大変意義あるプロジェクトです。



寿町の医療・福祉連携支援

「横浜市寿町健康福祉交流センター」と生活自立支援施設「はまかぜ」を訪問。医療・福祉・就労支援が連携し、生活に困難を抱える方々の相談や自立に向けた伴走支援が行われている現場を確認しました。安心して暮らせる居場所づくりと、切れ目のない支援体制の重要性を改めて実感し、現場の声を今後の施策充実につなげてまいります。

